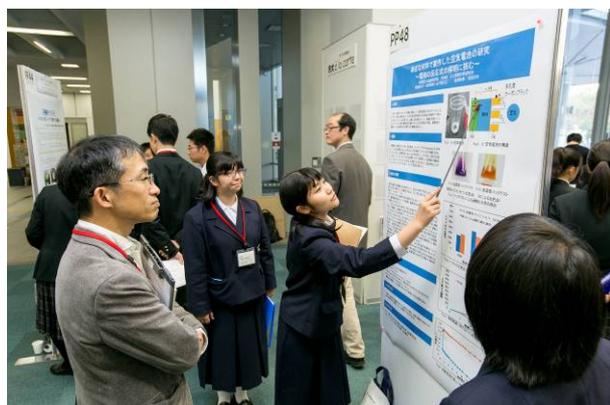


第14回 高校化学グランドコンテスト 募金趣意書

第13回高校化学グランドコンテストの様子

ポスター発表



口頭発表



“グラコン”に参加した高校生たちの奮闘記「高校生・化学宣言」が毎年、遊タイム出版より刊行されています。



謹啓

皆様におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびは、「第 14 回 高校化学グランドコンテスト」の開催に伴い、皆様からのご支援を賜りたいと存じます。今年度は、最終選考会を平成 29 年 10 月 28 日（土）・29 日（日）の 2 日間にわたり、名古屋市立大学田辺通キャンパスにて開催します。

本コンテストの目的は、高等学校及び工業高等専門学校が生徒が、自ら自主的な化学的研究活動を通し、科学的な創造力を培う機会を提供することによって、将来の科学・技術を担い、牽引する人材を育成し、社会に貢献することにあります。

本年度より新たに名古屋市立大学と横浜市立大学が主催者に加わり、大阪市立大学、読売新聞社とともに四者による共同主催となりました。また、初めて名古屋市立大学での開催となります。

昨年度は 19 都府県から 45 校・71 チームの参加があり、本コンテストは徐々に規模を拡大しています。今回も第 13 回に引き続き、本事業の今後の発展、およびグローバル人材育成の観点から、海外の高校生を招へいし「高校化学グランドコンテスト 国際大会」として開催します。化学を通じて他国の高校生と交流する機会を得ることは、国内の高校生にとってもよい刺激となり、教育上もグローバル化といった大きな波及効果が得られるものと考えております。

さて、本コンテストでは、参加に要する費用は基本的に参加者の自己負担としておりますが、遠方からの参加の場合、旅費の工面が本コンテストへ参加する上での主な障害となっております。このような資金面での理由で本コンテストへの参加を断念される事は主催者として大変残念であり、口頭やポスター発表を行うチームについては、その旅費の一部を補助することにしております。

旅費の補助も含め、本来であれば、コンテストの運営費用は主催団体が拠出するべきですが、大学の会計法上、参加者旅費の補助は行えないという制限が課せられています。そのため、大学および科学に関わりのある多くの企業・団体ならびに個人の皆様からの、資金面でのご支援をお願いしています。

景気の先行きが不透明な昨今、このようなお願いを申し上げるのは誠に心苦しいことではありますが、本コンテストの趣意ならびに諸事情をご賢察いただき、ご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます次第です。

謹白

平成 29 年 5 月 吉日

第 14 回 高校化学グランドコンテスト実行委員会事務局長
櫻井 宣彦

第 14 回高校化学グランドコンテストの概要

1. 名 称 : 第 14 回高校化学グランドコンテスト
2. 開 催 日 : 平成 29 年 10 月 28 日 (土)・29 日 (日)
3. 開 催 場 所 : 名古屋市立大学 田辺通キャンパス 宮田ホール

4. 主催団体など

(1) 主催

大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学、読売新聞社

(2) 後援実績 (第 13 回)

文部科学省、各教育委員会 (大阪府、大阪市、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県、北海道、宮城県、福島県、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、鳥取県、島根県、岡山県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県) 大阪府立大学、首都大学東京、お茶の水女子大学、大学コンソーシアム大阪、南大阪地域大学コンソーシアム、読売テレビ

(3) 協賛実績 (第 13 回)

パナソニック株式会社、EA ファーマ・味の素株式会社、第一三共株式会社、株式会社遊タイム出版、シュプリング・ジャパン株式会社、シグマアルドリッチジャパン合同会社、八洲薬品株式会社、株式会社東京化学同人、株式会社化学同人、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本化学工業協会、一般社団法人近畿化学協会、東京化成販売株式会社、大研科学産業株式会社、大阪薬研株式会社、株式会社南出理化学商会、株式会社柴尾商店、株式会社リガク、和光純薬工業株式会社、ナカライテスク株式会社、株式会社アズバイオ、株式会社三井住友銀行

5. 高校化学グランドコンテストの目的

「高校化学グランドコンテスト」は、高等学校及び高等専門学校等の化学クラブの自由課題や、化学課程の課題研究等で行っている学習研究活動を支援し、高校生等自らが自主的な研究活動を楽しみながら科学的な創造力を培う機会を提供することを目的としています。本活動を通じて将来の科学者を育成することは社会貢献にもあたると考え、大学を挙げての運営を行っております。

本コンテストは平成 16 年より始まり、今年で 14 回目となりますが、(1) 自らの習熟度に応じて科学の楽しさを体験し、創造力を培うという点、および (2) 第一線の科学者である大学教員が高校の教育者と直接連携して、高校生の自主的な学ぶ活動を持続的に支援する点に大きな特徴があります。

本コンテストでは、「発表することの大切さ」を体験・実感してもらうために、着眼点のユニークさと、習熟度または自主的研究の成果を発表する公の場 (インターネット配信を含む) を提供し、優れた研究発表を行ったグループ・個人を表彰しています。表彰には最高の荣誉となる文部科学大臣賞をはじめ、各主催者賞、審査委員長賞、スポンサー企業による協賛者賞を設けています。

本コンテストでは、これまでの開催地である関西地方はもとより、今年度から名古屋市立大学と横浜市立大学が主催に加わり、関東・東海地方及び全国他都道府県においても、その高校生や高等専門学校生の化学への関心を高め、科学教育のレベルアップを図ることを目指します。また、企業や社会

的な影響力の大きな新聞社などにご協力いただき、より大きな事業となっております。学術団体からもご協力をいただいております。

6. 第14回高校化学グランドコンテストの概要

- ① 本コンテストは、エントリーした高校生による研究成果の発表の場であると同時に最終選考の場でもある。最終選考は、化学分野において第一線で活躍する大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学、および他大学の教育研究者、協賛団体の協力の下で行い、高校生との直接の議論も行いながら実施する。最優秀賞に文部科学大臣賞等、優秀賞は各主催者賞とし、金賞他いくつかのカテゴリーにもとづく多くの特別賞を準備する。
- ② 本コンテストは大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学および読売新聞社の共同主催で実施し、各主催者より選出された実行委員からなる高校化学グランドコンテスト実行委員会が、関連研究者の協力を得て企画・運営を行う。
- ③ 共催新聞社は、事前に本教育事業の開催を社告にて自社新聞（朝刊）に掲載し、当日取材と特集記事（1乃至2面、10段記事／面、下5段スポンサー広告）を後日掲載する。
- ④ 他社新聞社など報道関係にも、最終選考会当日の取材は可能とする。ただし、ビデオ録画、放映などについては、共催側との事前協議の対象とする。著作権、知的財産所有権は、前例・慣行により主催（共催）者がもつ。
- ⑤ 本コンテストの後援は、文部科学省はじめ、関連学会などの学術団体および各都道府県教育委員会などに広く願います。コンテストのスポンサーは、後援団体または協賛団体となっていただく。
- ⑥ 本コンテストの全内容は、インターネットを通じてリアルタイムで配信し、高校等におけるe-Learningの一環としても活用し、各家庭でも視聴できるようにする。インターネット配信は、必要に応じて企業のプラットフォームを活用し、主催側が責任をもって行う。
- ⑦ コンテストの内容などは、教育機関をはじめ希望する個人または法人が鑑賞できるように、動画サイトに保存する。録画や編集、制作などは、高校化学グランドコンテスト実行委員会が責任を持って行う。
- ⑧ 本コンテストの開催については、開催実施要項が確定次第、共催側、協賛側、後援側、その他スポンサー側のホームページに掲載する。
- ⑨ 本コンテストの終了後、協賛・後援団体に対して決算を含む開催報告書として情報を開示する。
- ⑩ 参加申し込み方法：一般参加申し込みは、共催新聞社を通じる。ただし一部を招待とし、高校などの課外活動の一環としての参加も可能とする。
- ⑪ 参加予定者数：700名（2日間の延べ人数）
- ⑫ 参加費：無料

7. 高校化学グランドコンテストの構成

(1) 開催プログラム (予定)

10月28日(土)	
13:00～	受付
14:00～15:30	ポスター発表(前半)
15:30～17:00	ポスター発表(後半)
17:30～18:30	レセプションパーティー
10月29日(日)	
8:45～	受付
9:45～10:15	開会式
10:15～11:30	口頭発表
11:30～12:30	昼食休憩
12:30～14:15	口頭発表
14:15～14:30	休憩
14:30～15:30	特別講演
15:30～16:30	結果発表・表彰式

※ 時間は変更になる可能性があります。

(2) 使用言語

日本語あるいは英語

(3) 要旨集

講演要旨集を発行(第13回コンテストはA4版283ページ)。協賛団体の広告を掲載。

(4) 動画

コンテストの内容は動画サイトに保存し、教育機関をはじめ、希望する個人または法人がインターネットを通じて視聴。

8. 過去開催状況

開催年	開催地	発表件数	参加校数	参加者数
平成16年(第1回)	大阪市立大学	33	21	275
平成17年(第2回)	大阪市立大学	26	15	247
平成18年(第3回)	大阪市立大学	33	22	251
平成19年(第4回)	大阪市立大学	33	24	252
平成20年(第5回)	大阪市立大学	40	26	293
平成21年(第6回)	大阪市立大学	41	32	319
平成22年(第7回)	大阪府立大学	49	35	294
平成23年(第8回)	大阪府立大学	48	35	300
平成24年(第9回)	大阪市立大学	62	48	479
平成25年(第10回)	大阪市立大学	66	46	851*
平成26年(第11回)	大阪府立大学	67	40	680*
平成27年(第12回)	大阪府立大学	71	51	640*
平成28年(第13回)	大阪市立大学	71	45	599*

* 2日間の延べ人数

9. 組織

委員長	湯川 泰	名古屋市立大学大学院 システム自然科学研究科長
副委員長	中沢 浩	大阪市立大学大学院 理学研究科長
事務局長	櫻井 宣彦	名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科 准教授
監 事	二河 伊知郎	読売新聞大阪本社編集局 生活教育部長
監 事	篠崎 一英	横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科 教授
委 員	小嵯 正敏	大阪市立大学大学院理学研究科 教授
委 員	笹森 貴裕	名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科 教授

10. 問い合わせ先（事務局）

〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1 名古屋市立大学 山の畑事務室内
第14回高校化学グランドコンテスト実行委員会事務局（事務担当 布施 綾・伊藤 舞）
TEL：052-872-5802 / FAX：052-872-1531 / E-mail：staff@gracon.jp
高校化学グランドコンテストホームページ：http://www.gracon.jp

11. 寄附金を必要とする理由

本コンテストは、未来の日本経済の成長を担う全国の意欲的な高校生に加え、海外から優秀な高校生を招へいし、お互いに交流を深めて切磋琢磨する機会を提供することで、未来の化学産業を背負う学際的な高校生の育成の重要性を日本全国へ発信することも目的としています。

本コンテストの開催に必要な経費は、「12. 総事業予算（概算）」の通りおよそ 860 万円です。主催団体である大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学が 計 360 万円を負担し、前年度からの繰越金と合わせて今年度は約 510 万円の財源を用意することができました。

本コンテストの参加にあたって必要な費用は基本的には自己負担としていますが、本コンテスト参加について保護者およびご家族のご理解ご協力を得るためには、参加高校生本人のみならず指導教員の監督と同伴が必須となり、特に遠方からの参加には多額の旅費が必要となります。経済的な理由で未来ある意欲的な高校生が本コンテストへの参加を断念せざるを得ない、という事態が懸念され、これは主催者として大変不本意なものです。そこで最終選考会で発表を行うグループについては、可能な限り旅費を補助することで、本来の趣旨に沿った本コンテストの実施が実現すると考えております。皆様からの寄附金(目標額 350 万円)は、旅費や滞在援助を中心に、コンテストの趣旨にのっとった運営を滞りなく有意義に進めるための財源として活用させていただきます。

12. 総事業予算（概算）

総予算	8,600,000 円	
(内訳)	コンテスト準備費	3,200,000 円
	コンテスト運営費	1,700,000 円
	旅費補助等	3,200,000 円
	予備費	500,000 円

平成 29 年 5 月 8 日
第 14 回高校化学グランドコンテスト実行委員会事務局
事務局長 櫻井 宣彦